信州教師塾Ｂ　第３回
「 文章構成力 」

～出来事や情報を分かりやすく伝えるために、見出しやリード文の書き方について学ぶ～

《 指導者 市川朝教 様 》

１２月１８日（月）に「信州教師塾Ｂ」３回目の研修会が、上伊那教育会館講堂で行われました。今年度最終となる講座には２４名の受講者が集いました。今回は、「文章構成力」をテーマに、市川朝教様（信濃毎日新聞読者センター次長）を指導者にお迎えしました。

講座は、①先生が作成する文章と新聞の共通点を考える②文章を分かりやすくするポイントを学ぶ③「新聞の伝える工夫」を学ぶ④記事で確認する⑤新聞と学級通信の違いを考える⑥学級通信を書くという流れで進みました。まず、先生が作成する文章も新聞も伝える文章であるという共通点を教えていただきました。次に「一つの文章で伝えることは一つにする」「一文を短くする」など、文章を分かりやすくするポイントを演習を交えながら教えていただきました。演習では、書いた文章を見合い、近くの先生方と楽しく会話しながら、どのような文がよいか考える場面もありました。さらに新聞から「見出し」（ニュースを凝縮）「リード」（ニュースの概略）「本文」（ニュースを詳しく）という構成を確認し、「伝えたいことから書く」というポイントを学びました。その後、実際に学級通信を書くという演習を行いました。受講者の先生方は「伝えたいことは何か」を明確にし、文章を分かりやすくするポイントを意識しながら、集中して文章を書き上げていました。講座終了後には、「ハッとさせられることの多い、実りのある研修でした。」「明日から早速伝わりやすい学級通信を作成していきたいです。」などの感想が寄せられました。

＜文章を分かりやすくするポイント＞

①修飾語と被修飾語の位置に注意
　読み手に誤解を与えない順番に

②一つの文で伝えることは一つに
　１文に多くの要素を入れると複数の意味に取れる

③１文は短く（多くても50字程度）
　短い文の方が、誤解せずに読みやすい

④受け身表現を多用しない
　主体を明確にする

⑤入れ子型の文章は避ける
　主語と述語を近くに

⑥時制も意識する

演習では「白い紙」「横線の引かれた紙」「厚手の紙」という語句を１文にする際、「紙」にかかる修飾語を読み手に誤解を与えないように並べ替えるにはどのような順番にするのがよいか考えました。

×白い横線が引かれた厚手の紙
×白い厚手の横線が引かれた紙
〇横線が引かれた白い厚手の紙
〇横線が引かれた厚手の白い紙
×厚手の白い横線が引かれた紙
×厚手の横線が引かれた白い紙

《　研修の様子　》

《　受講者の感想（抜粋）　》

以前、学年通信を書いた際に「もっとスッキリとした文にした方が良いね」というアドバイスを先輩の先生からいただいた。今回の研修で分かりやすく、詳しく正しく書くために 1 文の文字数や修飾語・被修飾語の位置などの大切さを学んだ。またリード文の重要さを知ることができたのが一番の学びだと感じる。今回学んだことを活かして文章を書いていきたい。
文の書き方や構成の仕方など様々なことを学ばせていただきました。特に、リード文を意識して学級通信を書くということが自分の大きな学びとなりました。この通信で何を伝えたいのかということを考えた上で、見出しやリード文を作っていきたいと思いました。
読み手は誰か？どうやったら伝わるのかを改めて考えることができました。所見や文を書くとき、文が長くなってしまっているので、「主語と述語は近くする」「途中で文を切る」などをしていきたいです。

《　終わりに　》

３年目となる本研修会（信濃教育会共催）へ、多くの先生方にご参加いただきありがとうございました。毎回、受講生の皆様から前向きな嬉しい感想をたくさんお寄せいただきましたことも企画・運営側の励みになりました。

次年度も３回の開催が予定されています。是非、多くの先生方にご参加いただけますようお願い申し上げます。